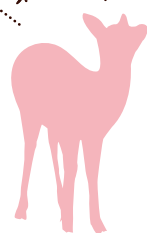


まほろばだより

第54号



● Contents ●

- Report 1 国際ソロプチミスト奈良―あすか授賞式
- Report 2 本学教員の競争的資金獲得割合
- Report 3 男女共同参画に関する授業の実施
- Report 4 本学附属病院医局長の女性割合
- Information 1 第15回女性研究者学術研究奨励賞募集

Report

国際ソロプチミスト奈良―あすかクラブにて授賞式が開催されました

国際ソロプチミストは、女性と女兒の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良―あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設されています。また、大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。

この度、解剖学第一講座の井上浩一教授及び女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた堀井謹子講師が国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました。同時に、放射線診断・IVR学講座の田中利洋教授及び女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた丸上亜希助教が国際ソロプチミスト奈良―あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。

5月24日橿原神宮の養生殿にて華やかな表彰式が執り行われ、国際ソロプチミスト奈良―あすかの田中康予会長から講評・賞状等の授与が行われました。表彰式では、田中会長はじめクラブの皆さまが、堀井先生と丸上先生にお祝いの言葉と今後益々の発展を期待する励ましのお言葉をかけてくださりました。本学の女性研究者をいつも勇気づけてくださる奈良―あすかの皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞
堀井謹子 講師国際ソロプチミスト奈良―あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞
丸上亜希 助教

左端：田中康予会長 右端：須崎康恵副センター長

Information

第15回女性研究者学術研究奨励賞募集

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

第15回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内予定です。対象者は、本学の女性教員（教授を除く）、医員、博士研究員、特別研究員、大学院生です。過去の実績者一覧および研究テーマは、当センターHPに掲載しています。数多くの女性研究者からのご応募をお待ちしています。

<https://josei.narmed-u.ac.jp/activity/training/index.html>

当センターHP/女性研究者育成▶



本学教員の競争的資金獲得割合

現在多くの大学にとって外部資金獲得及び財源の多様化は重要な課題となっています。外部資金獲得において最も一般的なものは競争的資金の獲得です。以下に示す競争的資金とは、文部科学省科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費補助金、国立研究開発法人日本医療研究開発機構および国立研究開発法人科学技術振興機構の研究費です。

表1 専任教員数及び競争的資金獲得教員数（令和7年7月1日現在）

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数（人）	16	7	41	12	231	51	7	29	295	99
	23		53		282		36		394	
獲得教員数（人）	5	4	31	9	108	18	3	18	147	49
	9		40		126		21		196	
獲得教員割合（％）	31.3%	57.1%	75.6%	75.0%	46.8%	35.3%	42.9%	62.1%	49.8%	49.5%
	39.1%		75.5%※		44.7%		58.3%		49.7%	

※ $p < 0.05$ 基礎医学系VS教養教育/法人・大学、臨床医学系

今年度、競争的資金を研究代表者として獲得した専任教員は196人で、獲得教員割合は49.7%（394人中196人）と約半数でした（表1）。平成26年度の40.2%から獲得教員割合は徐々に増加し、令和3年度からの4年間は50%以上となっていました。直近2年間の獲得教員割合は横ばいの状況が続いており（図1）、来年度の増加が期待されます。

部門別では、基礎医学系の獲得割合が75.5%（53人中40人）と本学では最も高く、教養教育/法人・大学の39.1%（23人中9人）、臨床医学系の44.7%（282人中126人）と比べて有意に高い結果でした（表1）。

図1 男女別競争的資金獲得教員割合の推移

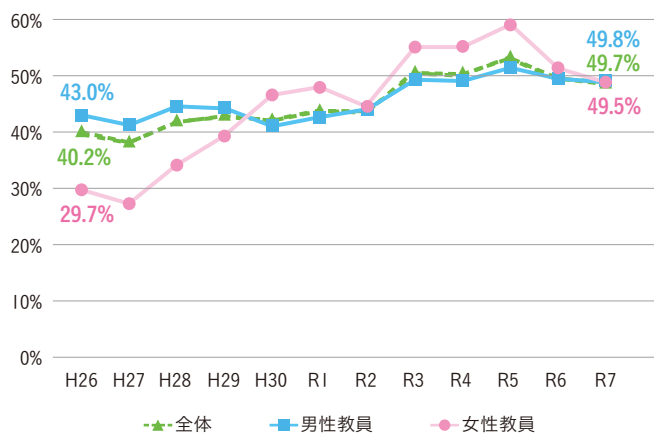
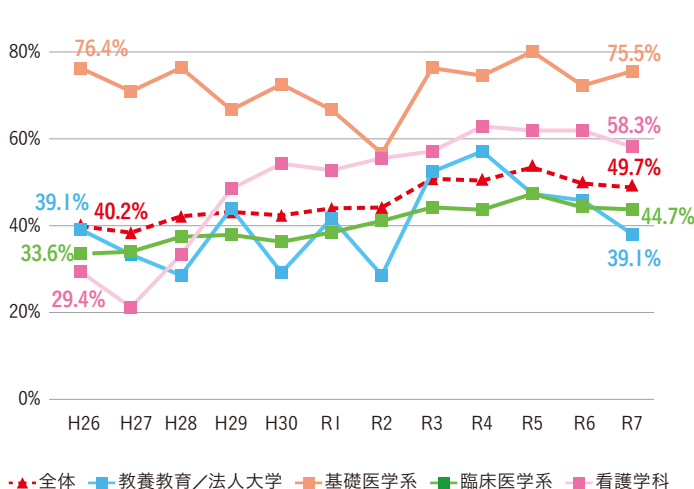
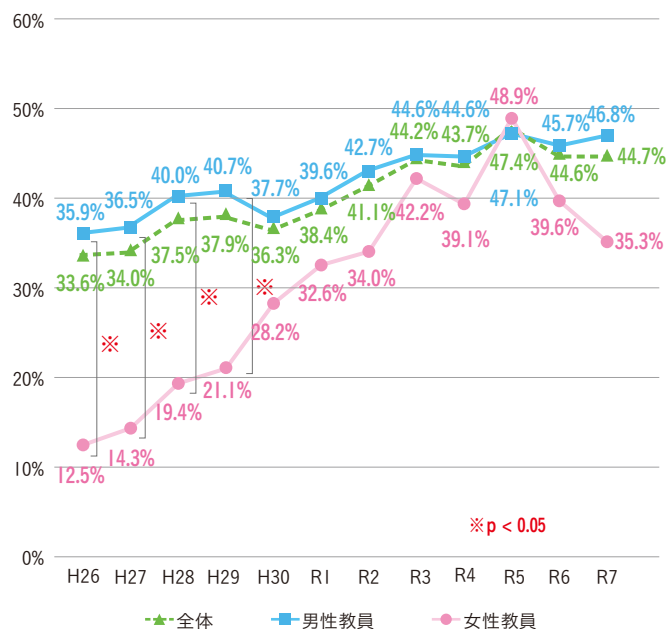


図2 部門別競争的資金獲得教員割合の推移



男女別では、男性教員の獲得割合が49.8%（295人中147人）、女性教員の獲得割合が49.5%（99人中49人）と男女間に有意な差は認めませんでした（図1）。平成26年度以降、女性教員の獲得割合は増加しています。これら女性教員の研究力向上は、当センターを含め法人全体で取り組んできた女性研究者・医師に対する支援活動の成果と思われます。しかしながら、令和5年度以降は低下傾向にあるため今後の推移を慎重に見ていきたいと思います。

図3 臨床医学系教員の男女別獲得教員割合の推移



基礎医学部門は、データのある平成26年度以降、競争的資金を獲得している教員の割合が本学で最も高く、今年度も75.5%の教員が競争的資金を獲得しています(図2)。また、複数の教員が在籍する教室の中で、**全教員が競争的資金を獲得している教室**は、基礎医学部門の6教室(第二解剖学、第一生理学、第二生理学、生化学、免疫学、血栓止血先端医学)と**未来基礎医学、成人慢性期看護学**の8教室であり、基礎医学部門が大部分を占めています。

臨床医学系教員の競争的資金獲得割合は、基礎医学系教員と比べると有意に低い44.7%ですが、平成26年度以降、徐々に増加しています(図3)。臨床医学系女性教員の獲得割合は、平成26年度の12.5%から増加して今年度は35.3%となっていますが、令和5年度以降は低下傾向にあります。臨床医学部門でさらなる競争的資金獲得のためには、本学最多の31人にのぼる科研費不申請教員(表2)を減少させること、ならびに科研費新規採択割合(表3)を高めていくことが重要です。臨床医は医師の働き方改革の影響で全国的に研究時間の確保が困難になっており、今後益々効率的な研究支援が求められます。一方、臨床業務多忙の中で研究業績を伸ばしている教室も多く、**脳神経内科学(在籍教員の競争的資金獲得割合87.5%)を筆頭に、耳鼻咽喉・頭頸部外科(70.0%)、循環器内科学(66.7%)、麻酔科学(66.7%)、皮膚科学(62.5%)、産婦人科学(60.0%)、放射線診断・IVR学(57.9%)、消化器・総合外科学(53.8%)**の8教室は、**半数を超える教員が競争的資金を獲得**しています。

看護学科の競争的資金獲得教員割合は58.3%と本学で2番目に高く、平成26年度と比べると獲得教員割合は大幅に増加しています(図2)。大多数の看護学科教員は教育業務多忙の中で科研費申請を積極的に行い、科研費不申請教員割合(令和6年9月時点で本学に在籍し、令和6年度末に科研費による研究期間が終了する教員の中で、新たに科研費申請をしなかった教員)は本学で最も低くなっています(表2)。

表2 科研費不申請教員割合(令和7年7月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	16	7	41	12	231	51	7	29	295	99
	23		53		282		36		394	
不申請教員数(人)	3	2	2	2	25	6	1	0	31	10
	5		4		31		1		41	
不申請教員割合(%)	18.8%	28.6%	4.9%	16.7%	10.8%	11.8%	14.3%	0.0%	10.5%	10.1%
	21.7%		7.5%		11.0%		2.8%		10.4%	

表3 教員申請科研費の新規採択割合(令和7年7月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
申 請 件 数(件)	9	1	23	7	125	32	4	18	161	58
	10		30		157		22		219	
採 択 件 数(件)	0	0	9	4	30	8	2	6	41	18
	0		13		38		8		59	
採 択 割 合(%)	0.0%	0.0%	39.1%	57.1%	24.0%	25.0%	50.0%	33.3%	25.5%	31.0%
	0.0%		43.3%		24.2%		36.4%		26.9%	

今年度の本学全体での科研費不申請教員の割合は10.4%でした(表2)。大部分の教員は科研費を適切に申請していますが、教養教育／法人・大学部門の不申請割合が昨年度に引き続き高い状況でした。また、教養教育／法人・大学部門では今年度の科研費新規採択件数は、残念ながら0件でした(表3)。今後、より積極的な申請と新規採択に向けた工夫が望まれます。

女性研究者・医師支援センターでは、女性研究者のさらなる競争的資金獲得増加を目指して様々な研究支援を行っていきたいと思います。今年度の競争的資金獲得に関する詳細なデータは当センターHPでも公開していますので是非ご覧ください。

男女共同参画に関する授業

「奈良県の男女共同参画」

講師：奈良県こども・女性局 こども・女性課 下市実紀 課長

9月8日(月)医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」において、奈良県こども・女性局 こども・女性課の下市実紀課長から奈良県の男女共同参画についてご講演いただきました。男性も女性も自分らしく力を発揮し、一人一人の幸せを実現



授業の様子

できる社会を目指して行政が女性の就労支援、父親の育児参加促進、子育て応援などに取り組んでいることをわかりやすくご説明くださいました。授業中に学生へアンケートを実施し、その結果を基にした学生参加型の形式が取り入れられており、ジェンダーに関する思い込み等について学生が主体的に考える機会となりました。奈良県の男女共同参画について学びを深めた1年生が将来、県内外で男女共同参画社会の実現を担う良き医療人に成長できるよう、2年生以降も良き医療人育成プログラムにおいて6年一貫で男女共同参画に関する教育に取り組んでいきたいと思っています。



下市課長

本学附属病院医局長の女性割合

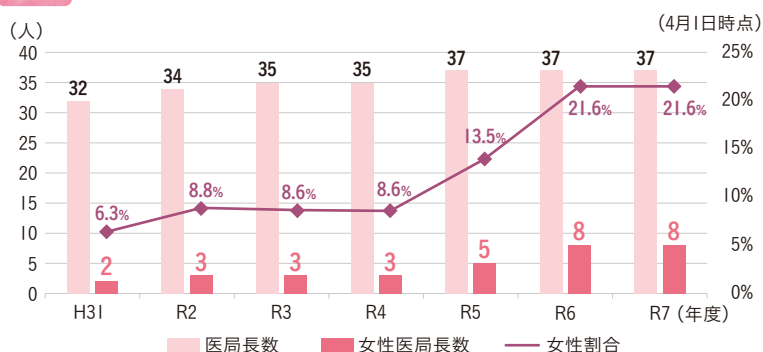
本学附属病院では、各診療科に上司の命を受け、科の運営に関する業務を処理する医局長が選任されています。2025年4月1日現在、28診療部と9中央診療施設に各1名、合計37名の医局長が在籍しています。今年度6月、前任の女性医局長(産婦人科)の交代として新たに女性医師が就任したため、6月現在も女性医局長は合計8名となっています(表1)。

女性医局長が在籍する8診療科では、複数の女性教員(2名から7名)が在籍しています。また、これら8診療科のうち6診療科では、講師以上の上位職に女性教員が在籍しています。女性医局長の存在は、当該診療科で女性医師の育成と活躍が進んでいることを示す一つの指標になると思われます。本学附属病院女性医局長の割合は近年増加傾向にあります(図1)、若手女性医師の増加が進む昨今、男女ともに働きやすい医局運営を実施するためにも、女性医局長の役割が益々重要になってくると思われます。

表1 女性医局長(令和7年6月現在)

診療科名	医局長名	発令日
リハビリテーション科	小林 恭代	2017年 9月19日
放射線治療科	三浦 幸子	2020年 4月 1日
感染症内科	今北 菜津子	2022年12月 5日
病理診断科	内山 智子	2023年 4月 1日
小児科	長谷川 真理	2024年 4月 1日
皮膚科/形成外科	正 畠 千夏	2024年 4月 1日
糖尿病・内分泌内科	紙谷 史夏	2024年 4月 1日
産婦人科	岩井 加奈	2025年 6月 1日

図1 医局長の女性割合の推移



【編集後記】

本学では約半数の女性教員が代表者として競争的資金を獲得していますが、臨床系女性教員の獲得割合が低い状況です。センターでは、更なる女性研究者の競争的資金獲得をめざして前年度本学で科研費助成事業に申請していない臨床医学部門および看護学科の女性研究者を対象に、今年も7名(教員3名、診療助教2名、病院助教2名)の研究者に科研費申請支援を実施しました。来春の採択結果をセンター一同楽しみにしております。

副センター長 須崎康恵

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

